

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 11 月 1 日 (2007.11.1)

【公開番号】特開 2002-90633 (P2002-90633A)
 【公開日】平成 14 年 3 月 27 日 (2002.3.27)
 【出願番号】特願 2000-283296 (P2000-283296)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 21/00 (2006.01)

G 0 2 B 21/02 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 21/00

G 0 2 B 21/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 9 月 18 日 (2007.9.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の対物レンズを装着したレボルバにより前記対物レンズを切り換えてステージ上に載置されている標本に対する観察倍率を変更する顕微鏡において、

複数の前記対物レンズをそれぞれ前記レボルバに装着したときの光軸ずれ量に対する補正值に従って前記ステージを補正動作し、前記対物レンズを切り換えたときの前記標本に対する観察視野のずれを補正する観察視野補正手段、を具備したことを特徴とする顕微鏡。

【請求項 2】

前記複数の対物レンズごとの前記補正值を記憶する記憶手段を有し、

前記観察視野正手段は、直前に選択されていた対物レンズの補正值と、切り換えられる対物レンズの補正值との差分から前記両対物レンズの相対補正值を算出し、該相対補正值に従って前記補正動作を行うことを特徴とする請求項 1 記載の顕微鏡。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 記載による本発明は、複数の対物レンズを装着したレボルバにより前記対物レンズを切り換えてステージ上に載置されている標本に対する観察倍率を変更する顕微鏡において、複数の前記対物レンズをそれぞれ前記レボルバに装着したときの光軸ずれ量に対する補正值に従って前記ステージを補正動作し、前記対物レンズを切り換えたときの前記標本に対する観察視野のずれを補正する観察視野補正手段を具備したことを特徴とする顕微鏡である。

また、請求項 2 記載による本発明は、複数の対物レンズごとの補正值を記憶する記憶手段を有し、観察視野正手段は、直前に選択されていた対物レンズの補正值と、切り換えら

れる対物レンズの補正值との差分から両対物レンズの相対補正值を算出し、この相対補正值に従って補正動作を行うことを特徴とする請求項 1 記載の顕微鏡である。